

### ■H30. 3. 2 市長定例記者会見内容

日時 平成 30 年 3 月 2 日（金）午前 10 時～11 時 30 分

場所 庁議室

出席 市長、副市長、市政推進調整監、企画振興部長、市民部長、健康福祉部長、商工観光部長、市長公室長

酒田記者クラブ 6 社（山形新聞、荘内日報、読売新聞、朝日新聞、毎日新聞、河北新報）

コミュニティ新聞社（記者クラブの承認による）

### ■内容

#### 1. 記者発表事項

「市庁舎 1 階フリースペースの通年開放と同スペースへの酒田市障がい者就労支援カフェ『え～る』のオープン」について

市長／1 階本町通りに面した部分のフリースペース。庁舎を作るとき、市民の皆さんが中心市街地に回遊するようということをつくった。庁舎完成を期に、3 月 23 日（金）から通年開放する。常々、市民の皆さんから市庁舎を身近に感じて欲しいと思っていた。同スペース内に午前 11 時～午後 2 時にカフェ「えーる」を併設。フリースペース自体は午前 8 時 30 分～午後 9 時に開放。土日祝日も。目の前に本町交番あるので安全面も大丈夫ではないかと。市民の皆さんに利用して欲しい。もう一つは、「えーる」。フリースペースの西側にオープン。オープンに当たって、3 月 23 日にオープンイベント。「えーる」の意味は、英語で「応援する」、フランス語では「翼」。障がい者の皆さんの社会参画の推進、障がいへの理解を深める目的がある。運営は「あらた」「たぶの木」が行う。市役所が完全にオープンするのに合わせてのオープン。更に来年度は、庁舎全体を花で飾る取り組みも行いたい。市民を巻き込んだの庁舎づくり。夜 9 時まで自由に使えるという部分に期待している。使用料金は無料。自販機もある。活発にミーティングなどに使って欲しい。市民に開かれた庁舎としての通年開放である。ぜひ取材をお願いしたい。

記者／予算 141 万円くらい計上されているが、運営費にそれだけかかるのか → 福祉課長／カフェ運営のために計上した予算としては消耗品費の 10 万円のみ。光熱水費は運営者から徴収する。

記者／広さはどのくらい？ → 福祉課長／（「え～る」が設置されるフリースペース西側は 60 m<sup>2</sup>。東側も同じくらい。全部で 120 m<sup>2</sup>くらい。

記者／運営組織は → 福祉課長／市も事務局として入った運営協議会「酒田市障がい者就労施設運営協議会」会長は光風会の阿部理事長。

記者／あらた、たぶの木でどれくらいの障がい者がいるか？その内運営に関わるのは何人？ →福祉課長／施設への入所者、今はわからない。運営に関わる人数としては、指

導員 1 人。障がい者 2 人。

記者／メニューは → コーヒー、紅茶、ジュース、弁当、スイーツでとりあえず始める。厨房で調理も可能なため、今後変わっていくかもしれない。値段は調整中。

記者／収益については、障がい者へ還元するのか → 就労する人への工賃という形で本人に払い、残ったお金が事業所へ。

記者／フリースペースに「え〜る」を作るということは、市役所にその他の食堂は作らないということか → 市長／その通り。

記者／このような形態のカフェ、市内にあるか → ない。鶴岡は数か所ある。市役所が運営に絡む形のカフェは酒田でははじめて。

記者／席数は → 約 16 席（テーブル 2 席とカウンター）。

記者／市役所に土日も入れるのは県内では初めて？ → 市長／多分初めて。もちろん庁舎側は施錠するが。

記者／東側をミーティングなどで占有する場合は → 市長／事前に申請必要。展示など行っている場合ある。

## 2. 懇談

### 【幹事社質問 1】

幹事社／風力発電に関し、山形県から事業認定があったが、それを受けて改めて市長としての意見を聞きたい

市長／県立自然公園条例の許可が 2 月 21 日に下りた。予想より早く下りたと思う。先日、反対者との意見交換も行ったところ。景観審議会などでも意見を聞いてきた。許可が下りたことを踏まえ、改めて植生の回復について協議を行い、事業を進めていきたい。県からの条件をしっかりと守り、事業を進めたい。環境・植生に対し危惧を抱いている方もいるので、十分に意識してやっていきたい。許可が出たことを受け、事業を進めるに当たって、費用は補正予算を組んで進めていく。

### 【幹事社質問 2】

幹事社／中高一貫校について、庄内開発協議会の一因として県に要望する立場である一方、市長として県の教育庁に対し設置反対の要望も行っている。これまで市として庁内・教育現場含めてどのような話し合いを行ってきたかを聞きたい。

市長／昨年 9 月に県の教育庁から説明を受け、反対の立場を表明した。要望は鶴岡から開発協を通じて出されたが、中身がよくわからないうちに鶴岡市要望事項として出されたもの。庄内に一貫校をとるのは県の方針であり、これについては尊重する。ただし、高校再編と一貫校は別の話。県には地元の意見を大事にして欲しい。県からは酒田市民の意見を聞こうという話は来ていない。県で講習会を実施したという話は聞いているが、市民の意見を聞く場はない。県の動きを注視したい。

### 【幹事社質問に関する質疑】

記者／庄内で県・国に関わる事項は庄内開発協で調整する流れで来た。重要要望事項の中で、鶴岡市は平成 26 年度要望として出されたもの。開発協議会の構成員であり、要望事項に載っているのだから、知らないということはないのではないか。その上で知事に反対要望に行くはおかしいのでは。

市長／今回の話は、鶴岡の具体的な学校名が出ている。当時は東桜学館もなく、中身がわからなかった。その状況で「庄内に一貫校を」という話自体に反対する道理は無い。ただし具体的な位置や校名が出てくると話は別。東北公益文科大学の時は酒田市がずっと要望していたが、創るとなったときに鶴岡も庄内町も手を挙げてきたという経過がある。鶴岡の学校に併設されるという具体的な話に関しては、酒田市に影響ある話なので、反対した。要望した際の開発協の会長は鶴岡市長。権限は大きく、重要事業に上げること自体に反対できるものではない。それを言えば、新幹線の延伸に関して、鶴岡市が全面的に協力しているわけではない。中高一貫校に関しては、地域全体の意見が反映されているとは言えない。

記者／高校再編の考えの中で中高一貫校を議論する考えは以前からあったのでは

市長／それは県の考え。酒田の高校再編には、中高一貫の話は全くない。ゴネた者勝ちなのかという話。すでに再編されたものとしては「そうですか」とは言えない。鶴岡の再編と酒田では規模が違う。県の教育庁の話を見ると、改革案を盛り込んだ再編だったというが・・・今回の問題は波及点大きいと思う。具体的な案の前に、地元ともっと対話が必要だったのではないかと強く思う。東北公益文科大学当時、担当していたものとしては、どうしてもそう思う。当時はしっかり地域で話し合っ、キャンパスが酒田、先端技術研究所が鶴岡となった。同じ学区の話なので、その中で鶴岡に一貫校ができる影響は大きい。東桜学館とは状況が違う。

記者／最初に県のア案が示されて鶴岡が要望。これまでの期間酒田市で議論がなかったというのはおかしい。

市長／県の最初の要望調査では希望は出なかった。その後平成 26 年に鶴岡から要望あった。その際、県と鶴岡の間に何かあったのではと、個人的には思う。不信感を持っている。最初の時点では県立中学校に関する実態が全くわからなかった。その後、東桜学館を視察した際にその施設の素晴らしさなどに初めて気付いた。その後に要望などの動きが出るのは自然な話。中学校は、基本的に市町村の教育委員会に権限がある。その点に関しては、もっとていねいな説明があってもよかったのでは。県立中学校に、人員も、予算も集中する恐れがある。残されたところはどうするのかという思いがある。

記者／東桜学館後に具体的な話が出たということか。

市長／その通り。

記者／大学設置の当時は、地域で議論したと言う。中高一貫校に関しては、県の説明が欠けていたと言う。これを風力発電に置き換えると、住民への質問が欠けていたと思う

がどうか。

市長／当時は風力発電をやると決めて、知事と市長が記者会見した。果たして反対意見は出てきた。同様に賛成意見も。事業者としての立場では、反対する方の意見も聞き、対応していけると思っている。これまで十分な説明を尽くしてきたという認識はある。なので、中興一貫校の話とは違うと思う。風力では、反対する声が大きければ、事業者として判断を下さなければならない部分はあると思う。しかし中高一貫校に関しては、酒田だけが反対しているからといって、中高一貫校をやめるとはならないと思う。

記者／風力発電の発表前、市役所の中では話していたのかもしれないが、場所を発表する時点では地域の意見を聞いていなかったのでは。もっと丁寧に話を聞いていれば、別の場所という話も出てきたのではないか

市長／平成 25 年当時、地域の皆さんの意見を、説明会などで聞いて理解を得たという経緯ある。地域のほかに、野鳥の会などいろんな会があり、それら全ての話聞いたわけではない。

企画振興部長／地元（十里塚、八重浜、浜中、宮野浦）にお知らせしている。環境審議会でもエネルギー環境取り巻く情勢を説明し、市の考えを伝える機会をつくった。ただし広く市民の意見を聞くという点では、していなかったかもしれない。風車の建設に関してはガイドラインがあるため、それに従ったところ、予定地しか空いていなかった。

記者／地元からの反対は無かった？

企画振興部長／その時点では、何の調査も行っていただけではなかった。当時の十里塚自治会長は、最初は厳しい対応だったが、調査自体には理解を示してくれた。時代の変遷、エネルギー情勢も含めての理解だった。

記者／補正予算、30 億円の調達の方法は

企画振興部長／電気事業債。普通の借金。利率は借りの時点。事業費全額。

記者／予算の内訳は。

企画振興部長／設計はほぼできている。単価の入れなおし、一定の手続き（認証制度の書類が膨大）を 6 月、工事費の計算を 9 月、2 月末までには発注する

## 【フリーの質問】

### ●八幡病院関係

記者／八幡病院、住民から地域への医療レベルの一定程度の維持を要望されていたが、市長からは一定程度総合計画へ反映させられればよいという話があった。しかし新総合計画に記載は無かったと思う。八幡地域の住民は理解しているのか

市長／医療については、八幡病院だけにこだわるわけではなく、飛島なども含めた地域全体の医療を議論してきた。そういう意味での計画への記載となっている。市内の地区でも医者までの距離がある場所はある。医療従事者の確保ができれば、医療レベルは担保できる。

企画振興部長／八幡病院あり方検討委員会、来年度以降も継続する。その場で、日本海八幡クリニックの姿についても議論していきたい。新たな取り組みも同様。

市長／松山地域の懇談会では、診療所3日から5日になることについて喜ばれた。八幡についても、地域の皆さんと話し合っ進めていきたい。

#### ●希望ホール関係

記者／鶴岡市の文化会館がグランドオープンする。現在、希望ホールの催し物はギチギチではない。人口30万人の地域に、ホール3つ（希望ホール、荘銀タクト鶴岡、響ホール）は多い。共生できるのか。

市長／おっしゃるとおり。多すぎると思う。人口が減少し、域内交通の向上の中で、自治体単位でつくる時代ではないのかも。今後は庄内エリアで施設・仕組みをまとめていくべきであると思う。生活圈は一緒。中高一貫校も同じ、庄内全体で整理していく時代なのではないかと思う。機能分担できるなら話は別だが。効率的な施設整備などのために開発協も変わらないといけない。

記者／開発協も含め、鶴岡酒田の意思統一必要だと思うが、鶴岡市長変わってそれができるか。

市長／できると思う。開発協、市町村会など・・・さまざまな問題、一つのエリアとして意思決定・統一するプラットフォームをもつこと大事ではないかと思う。

記者／メインは開発協か。

市長／開発協は経済団体も入って大きい。基本的には庄内市町村会だと思う。

記者／調整の仕組み必要だと思うが、あるか。

市長／鶴岡市長にイニシアチブをとってもらってつくっていきたい。

記者／建物がある中で、イベントの共有・配分の方法はあるか

市長／文化芸術基本条例掲げた。イベントの誘致のとき、3者協議の場があってもいいのではないかと思う。住み分けはありだと思う。文化施設は、イベントだけでなく、市民が気軽に使える場であることも重要。

企画振興部長／響ホールは定住自立圏で調整できるが、鶴岡はどうかわからない

市長／酒田でやるものは酒田市民だけ、鶴岡は鶴岡市民だけではなく、それぞれにそれぞれの市民が行くような関係になればいい。

記者／文化芸術条例において、観光にもつなげていく取り組み盛り込まれている。鶴岡もそうだが、南陽や新県民会館できれば、県内全体での奪い合いになる。どうするか。

市長／市民にどれくらい素晴らしい芸術を提供できるかが第一。他のことは考えない。

記者／希望ホールの駐車場が混み合っている時は、だいたい地元の催し。大きな催しの話を聞かなくなってきた。南陽に取られているのではないかと思う。興行を引っ張ってくる取り組みは。

市長／基本民間の話。地域の人が芸術文化に興味を持つようになれば、満員になること

も増える。まずは地道な活動から始めていかないと…。

記者／直営でやっているが、費用かかるし専門的な人材が育ちにくい。将来的に問題では。民間の活用は。

市長／条例を作る前までは、希望ホールは単なる貸し館だった。条例がスタート。アートコーディネーターを配置する。単なる箱ではなく、有機体になるためには人や組織が必要。そのためにはコーディネーターのような人の意見も必要。

#### ●歴史市街地構想関係

記者／歴史市街地構想、新年度予算の構想を聞かせて欲しい。

市長／歴史市街地構想は私的な考え方。市の考え方としては山居倉庫などいろいろある。歴史的なまち並みを生かしたまちづくりをしたいという思い。酒田の歴史を感じられるまちにしたい。取っ掛かりとしては、山居倉庫周辺。旧商業高校の建物そのまま残っているのは見苦しい。旧割烹小幡も来年度取り掛かっていきたい。点から初めて、最終的に歴史的市街地と呼ばれるものができれば、まちを訪れた人にとって魅力になるのではないかと思う。

記者／クルーズ船、インバウンド、DC・・・などを包含しての構想か

市長／そうってはいる。しかし全て行政ではできない。民間の力がないと実現はしない。ハード面の整備では無駄な税金投入に終わる恐れがある。